

展示会のお知らせ

● 琉球八景展

琉球八景を描いた葛飾北斎(1760~1849)は、江戸時代後期に活躍した浮世絵師で、89年の生涯で版画や肉筆画などで3万点という作品を描きました。

「琉球八景」は錦絵(多色刷りの木版画)全八枚で構成され、琉球の景勝地が描かれています。しかし、北斎が異国である琉球を訪れたわけではありません。

この作品が制作されたのは1832年。北斎が参照したのは、その前年に徳川幕府が刊行した『琉球国志略』という書のなかの挿絵「球陽八景」だったと言われています。

本展では、当館所蔵の「琉球八景」と、校合(せうごう)を合せてを展示致します。作品保護のため、会期を短く設定しております。どうぞお見逃しなく、ご覧ください。



○会期 4月29日(土)~5月14日(日)
○観覧料 一般 200円
シルバー(65歳以上) 160円
大学生 130円
高校生以下 無料
※新コレクション展常設展もご覧いただけます。

「漆キット」で

琉球の漆器に親しもう!

浦添市美術館では、子どもたちが琉球漆器に親しめるよう、学習用教材「漆キット」を作成しました。

学習用教材といっても堅苦しいものではなく、DVDや製作工程の盆、すごろくが入ったセットです。

DVDは、漆ってなんだろうということから始まり、漆器の製作工程や作品などを紹介するものです。漆と琉球漆器についてコンパクトにまとめたもので、まずは映像で漆器についてイメージをつかんでもらおうというものです。

製作工程の盆は4枚組で、そのうちの3枚では、沖縄県で大きめの漆器製作に使われるデイゴ材の素地から、布を貼って補強し、下地を塗り、上塗りを施して完成するまでの状態を触りながら見る事ができます。



製作工程の盆に触れてみる

● 平成28年度 新コレクション展

平成28年度に寄贈や購入により収集した作品を一堂に紹介します。寄贈品は戦前のモダンな沖縄漆器や山田真山画伯の白衣観音菩薩図、中国からヨーロッパへ輸出された広東漆器、アジア地図など29件52点あり、購入作品は琉球王国時代の漆器5点です。この機会に新たな収集品をぜひご鑑賞ください。



山田真山 掛軸
白衣観世音菩薩(部分)
古波倉史子氏 寄贈

○会期 4月29日(土)~5月14日(日)
○観覧料 一般 200円
シルバー(65歳以上) 160円
大学生 130円
高校生以下 無料

※琉球八景展・常設展もご覧いただけます。

● 実習教室作品展

● 浦添市美術館友の会・サークル作品展

当館では、一般の方を対象に実習教室を開講しています。本展は平成28年度に開催した沈金・箔絵・篆刻・きゆう漆・螺鈿・切り絵の5教室の作品を展示予定です。実習教室に参加した約50名の受講生の、個性あふれる作品をお楽しみください。受講生の作

品と併せて講師作品も紹介します。

また、美術館のサークルメンバーや友の会会員の、日頃の制作の成果を発表する作品展も同時開催されます。

○会期 5月18日(木)~28日(日)
※最終日は午後3時まで

○観覧料 無料

● 儀間比呂志展

本展の作品は、沖縄を代表する芸術家の一人、儀間比呂志氏が沖縄戦をテーマに制作した沖縄戦版画集『戦がやってきた』シリーズの原画です。

『戦がやってきた』は儀間比呂志氏と中山良彦氏の共著で、1979年に刊行されました。沖縄戦体験者の証言を元に儀間氏が版画を、中山氏が文を担当し制作されました。

約70年前、

この地で何が起こっていたのか。儀間氏は沖縄戦の凄惨な姿を版画で表現しました。

本展が戦争の悲惨さ、平和の尊さについて考える機会となれば幸いです。



○会期 6月14日(水)~6月25日(日)
○観覧料 無料

るのですが、カードには美術館の収蔵品の写真と解説が掲載され、楽しみながら様々な作品を知ることができます。

こうした品々が一つの箱にまとめられ、持ち運びできるようにしています。

この「漆キット」は無償で貸出できますので(輸送費のみ利用者負担)、修学旅行で沖縄に行く際の事前学習や、漆について調べるといった目的学習など沖縄県内外の学校や児童館、学童保育などで活用いただければと思います。

もちろん子どもだけでなく大人も楽しめる内容となっています。また、美術館内でも利用できるのです。美術館に行つたついでに遊んでみるのはいかがでしょうか。詳しくは美術館までお問い合わせ下さい。

● 動画で美術館発信

浦添市美術館のホームページをご覧になったことはありませんか?

美術館の展示会や講演会、実習教室といった催し物の情報などを中心に発信しています。

今回、美術館を県内外や国外へもアピールしようと、動画を製作しホームページにアップします。

動画は2種類、美術館をじっくり紹介する「美術館篇」と、美術館を含めた浦添市の文化財を紹介する「文化財篇」があります。しかも5分程度のロングバージョンと、それを2分程度にまとめたショートバージョン、英訳バージョンと、見る方が選べるように編集しました。

● 漆の国際シンポジウム

「アジアに広がる螺鈿の文化と歴史」

去る2月5日(日)に浦添市でこのホール(小ホール)において、公益財団法人ポーラ美術振興財団の助成による漆の国際シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは、「きらめきで飾る、螺鈿の美をあつめて展」の関連催事として開催しました。ヤコウガイやアワビなど貝の真珠層を使用した螺鈿技法について、日本・韓国・タイ・ベトナムの漆芸(画)家と研究者6名が報告し、意見交換を行いました。全国各地から一般と専門家約130人の参加がありました。閉会後に当館の喫茶「花うるし」で交流会を催し、館員ともども、懇親を深め、互いの知識や情報交換をする良い機会となりました。



▲奈良の正倉院御物と春日大社宝物にみる螺鈿について報告した北村昭斎氏(人間国宝)



▲シンポジウム報告者による意見交換



▲空からの光景も

「美術館篇」では、まずは美術館の特徴的な建物の内外や周りの自然をじっくりご紹介しています。また、いくつかの作品を取り上げて撮影しており、こちらもゆっくりご覧いただきたいところです。

「文化財篇」では、13~14世紀の古い史跡・浦添グスクや王の墓である浦添ようどれ、王国時代の石畳道など、琉球の面影を残す浦添が紹介されます。また、民俗芸能の獅子舞や現代の工芸「うらそえ織」など、浦添市の魅力を伝えます。首里城などがある那覇市の隣にありながらなかなか知られていない浦添市ですが、動画で美術館と市の史跡などに興味を持っていただき、足を運んでもらえればと思います。

動画のみのところは色々ありますが、オンラインの漆器たちや、動画のバックに流れる音楽にも注目です。ぜひ一度、ご覧ください。

◆HPはこちらから

